

智慧（前半） 人の物事の見方

元々お彼岸は仏道修行の期間ということもあり、毎年仏道修行の六波羅蜜（布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧）に関する話を順番にさせて頂いています。今年はいよいよ最後の智慧になりますが、これに関しては説明に迷うというのが正直なところですが、今までの六波羅蜜は他者への施しや忍耐、努力など、皆様も「確かに修行として必要だね」と納得してくれそうなものです。しかし、智慧は違います。どちらかという頭の良さや先見の明などを想像される方も多いのでそれは修行なのか、という意見もあります。また「世の中の真理を悟る」「執着や苦を脱する」「知見」などいくつもの意味を含む「智慧」ですが、六波羅蜜という修行の中に挙げられている意味は①修行の集大成として身につけていくもの、②正しい修行の為に必要なもの、だと私は思っています。

①に関しては皆様すんなり理解して下さると思います。先ほど挙げた頭の良さや先見の明などは生まれついでのものではありません。もちろん才能として頭の回転が早い方はいるでしょう。しかし、そこに何の知識や経験もなければ宝の持ち腐れです。例えば今、頭が良いと言われて思い浮かぶ一人は将棋の藤井聡太さんでしょう。頭の良さは言うに及ばず、先見の明に関して将棋では40手程先まで読み切ると言います。対戦相手がどの手を打ってくるか迷う場面もあるでしょうからそれらも含めて40手というのはちょっと想像ができませんね。しかし、そんな彼も幼いころから将棋のことを学び、考え続けてきたからこそ前人未踏の八冠に届いたはずですが、何も学ばず、何も経験しなければ頭の良さだけあってもただの凡人です。だからこそ、智慧を身につける為に修行や努力が必要だ、という話になるのです。

②に関してはどうでしょう。一番わかりやすい例は我々の身近にある「精進⇒努力」の例でしょう。努力をする際に闇雲に勉強した、練習したとしても結果がついてこないことは多々あります。もしくは、目標の為にしていた努力が実は見当違いで余り役に立たなかったりなど皆様にも覚えはありませんか。正しい努力をするためにも、正しい「見方、視点、認識⇒智慧」が必要なのです。先ほどの藤井さんの例でいえば、彼は将棋の練習をする際にAIを多用するそうです。2010ー2018年に開催されていた「電王戦」という将棋のAIと人間の棋士が戦う試合があり、藤井さんは将棋で伸び悩んでいる時期にその電王戦を見たそうです。2018年以後は既に棋士はAIに勝てなくなったと言われ、役割を終えたとして開催されていません。ただ、藤井さんの場合はそこで終わりではありません。今までは人から教わった流派や将棋で最善手とされていた定跡（囲碁は定石）と呼ばれる打ち方も含めて研鑽を積んできましたが、自分の今までの打ち方をAIを通して分析したそうです。そうすると、手が限られてくる終盤は得意でしたが、打ち方が無数にある序盤から中盤の指し方には改善の余地が見つかったそうです。

AIというのは人とは違う見方をします。体系的に分かりやすく人に将棋を教えるという意味ではやはり人に敵うものはないそうです。他にも棋士として長時間に及ぶ対局の過ごし方やミスをした後の気持ちの切り替え方などもAIから学ぶことはできません。しかし、単純に勝負の中で将棋の手を読むとなると藤井さんの40手よりはるかに先を読んでいます。そういった違う視点を通して自身を見つめ直し、前に進めるようになるというのは確かにひとつの「智慧」だと思います。実際、藤井聡太さん、iPS細胞の山中伸弥さんの対談をまとめた本『前人未踏』から本人の言葉を引用すると

「今のAIは強化学習によって、人間とは違う価値観、感覚が進歩してきたように感じます。それまで人間が気づかなかった手や判断を示されることもあるので、今までの価値観が刷新されてきて、むしろ自由度が上がったという感じがします。自分としてはAIを活用することで自分の将棋の新しい可能性を感じ、それで自分の棋力をより高めることができていると思っています。」と述べられています。この「自由度⇒囚われなくなる」というのが「智慧」の効果だと思います。

我々は普段何気なく生活しているだけで色々なものに囚われがちです。世間の流れや常識、経験、更には周囲との人間関係、様々なルールなど色々なものに触れながら生きています。それらは「より良くなりますように」と願って皆で決めてきたことなのでとても大切なものだと思います。ただ、それらに長く、何度も触れていると自然とそれらに関して考えることをやめてしまいます。心理学では「認知バイアス」と呼ばれますが、これは「考える」という負担を減らすための脳の機能だと考えられています。しかしデメリットも多々あって例えば先入観や偏見に繋がります。一番わかりやすいのは「安かろう、悪かろう」でしょう。ただ、安いものでも確かに良いものはありますし、高いからと言って一律良いものとは限りません。また、自分は大丈夫という過信にも繋がると言います。日常を問題なく過ごしていると自信を深めた方こそ、〇〇詐欺にかかることが多いのです。こういった認知バイアスに囚われない為にどうすれば良いかという心理学では「正しい認識を持つことや別の視点をいれるなどの比較をする」「因果関係、どうして安くなったのか・高くなったのか、儲けられる理由や仕組みを探る」とあります。先ほどの藤井さんの話にも出てきた将棋の定跡というのはある意味の「認知バイアス」でもあります。それらをAIという人とは別の視点を通じて改めて考えた結果、その定跡に前ほど囚われなくなったからこそ、先ほどの「自由度が上がった」という話に繋がるのだと思います。

ここまでは皆様にも理解しやすく心理学の話を紹介しましたが、認知バイアスの弊害を避ける為の心がけは「因果」や「正しい認識、別の視点⇒智慧」など仏教の教えと同様だと思います。むしろ紀元前から伝わるという歴史の長さを考えれば仏教こそが本家本元でしょう。仏教は古臭い、宗教は怪しい、それも一つの認知バイアスだと私は思っています。言葉こそ違いますが先端科学にも通じるほどの知見、「世の中の真理」という部分に確かに仏教は踏み込んでいます。「良いものは良い」、囚われずにそう言えるのも一つの智慧だと私は思っています。